

びわこ学院大学 令和五年度 学校推薦型選抜（公募推薦）「教養問題」

〔注〕設問で指示した字数には句読点等も含まれます。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

さて、「生きる意味の病」から出発して、私たちはようやく未来を展望できるところまで到達した。「人の目」と「効率性」によってがんじがらめになって、私たち自身の「生きる意味」が見失われているところに私たちの時代の病はある。それ故、いま私たちに求められているのは、私たちひとりひとりの「生きる意味」の自立である。しかし、一見私たちの自立をもたらすように見える、新自由主義的なグローバルイズムは私たちをますます効率性と他人からの評価に縛りつけ、私たちの「生きる意味の再構築」をもたらすものではない。

いまこそ、経済成長や数字に表される成長といった、私たちや私たちの社会を外から量的に見る見方だけではなく、「生きる意味の成長」といった人生の **A** に関わる成長を考えるべきときではないか。そうした「内的成長」をもたらす社会への転換が求められているのである。それは私たちが自分自身の「喜び」と「苦悩」に向かい合うことから始まる。そして、それは私たちの間のコミュニケーションのあり方の転換でもある。「内的成長」を育む様々なグループが生まれ、さらに仕事、学校、家庭といった場が私たちの「内的成長」の場へと転換していく。私たちのたどってきた道筋はおおよそ以上のようなものであった。

誰かから、あるいは社会から「生きる意味」を押しつけられるのではなく、私たちひとりひとりが「生きる意味」の創造者となる社会への転換がいまこそ必要だ。しかし、そうした転換に大きな危惧を持つ人もいることだろう。ひとりひとりが自身自身の「生きる意味」のもとに行動していたら、この社会はバラバラになってしまうのではないか。そもそもひとりひとりがやりたいように生きていけば、それは利己的な個人の集まりとなってしまう、社会の統合が取れなくなってしまう。

押しつけられた「生きる意味」ではなく、自分自身の人生を取り戻すこと、それは抑圧された自分自身から「我がまま」に生きることへの転換である。しかし、それは自己中心的で周りを意に介さない「ワガママ」となる可能性を秘めている。この「我がままーワガママ」問題はこれからの時代の大きな問題になるだろう。

①「我がまま」と「ワガママ」の違いとは何だろう。また、「我がまま」への目覚めがどのようなときに単なる「ワガママ」になってしまうのだろうか。

まず何が「ワガママ」と感じられるかは、社会によってかなり違うということを認識しておきたい。例えばアメリカに行くと、多くのアメリカ人のあまりの自己主張の激しさに閉口する人が多い。「私がこうしたい！」ということを行い張るのが当たり前で、言わなければ何も考えていないと見なされ、日本のように「口に出して言わなくても、何を考えているかを感じてくれる」社会が懐かしくなる。このように私たちから見ればかなりの「ワガママ」を言っても、「ワガママ」とは見なされない社会もある。しかしそうした社会でも、明らかに「ワガママ」ならば、強い調子で否定され拒否されるわけで、やはりそこには「我がまま」と「ワガママ」の差は存在しているわけだ。

そうした文化の差、社会の差を考慮に入れつつ考えたいが、この「ワガママ」を嫌う日本社会でもこのところ「ワガママ」としか思えない振る舞いが増えているのも事実だ。電車の中で大声での携帯電話の使用はこのごろ若者よりも大人のほうを多く目にするようになった。商品へのクレームもあるところまでは消費者の当然の権利だし、製造者の改善のためにもなるが、偏執的なクレームとなると話は別だ。子どものことで一方的に教師を責め立てる親。幼稚園や小学校の運動会は、自分の子ども「だけ」をビデオに収めたい親の場所取り合戦になり、お互いに「お前が邪魔なんだよ」と怒号が飛ぶ。そしてインターネットの掲示板などで炸裂する**②傍若** **B** 人で攻撃的な発言など。どうしたらこんなに **C** に振る舞えるのかと**③** いぶかっってしまうような場面に遭遇することが少なくない。

そうした状況でいつも感じるのは、「人の目」を気にしてきた日本人がいったん「人の目」を気にしなくなったとき、そこには自分自身の行動を律する何ものも存在していないのだろうかということだ。例えば、町中の道の上で座り込んでいる若者たちちに聞くと、「通行人は単なる風景で、人だとは思っていないから」という答えが返ってくる。「人の目」は気にするが、いったん「人」でないと思ってしまうれば何でもできる。そうした「ワガママ」な行動は、「人の目」に縛られてきた社会の反動ではないかと思えるのだ。

数年前、私の教えている東工大で留学生向けの講義を受け持ったとき、「日本の大学のどこが一番違和感を感じたか？」と聞いたことがある。その答えにびっくりした。ひとり「学生が授業中寝ていることです」と答えたところ、皆が「そうだ、そうだ」と大きくうなずいたのである。「どうして大学生が教室で寝ているんですか？ それでも大学生ですか！」と言うのだ。それを日本人大学生にぶつけてみると誰もが「だって、誰にも迷惑かけていないんだから、寝ようが勝手じゃないですか」

と言う。「寝ていて、授業についていけなくて後で困るのは自分なんですから、別に他人に何か言われる筋合いじゃないでしょう」。しかし、海外からの留学生にとってショックなのは、「大学生にもなって教室で寝ているあなたには、大学生としてのプライドがないのか？」ということなのだ。寝ていたら先生から怒られ、成績が下がるならば寝ない。友達から非難され、最低人間だと思われるのなら寝ない。しかしそうした「人の目」がなくなれば、寝てしまう。しかし、「人の目」がなくなっても、「自分の目」から見て教室で寝ることは大学生として恥ずかしいことだと思わないかと留学生たちは問うているのだ。

前述したように、ルース・ベネディクトは、「人の目」から非難される「恥」を強く意識する日本文化を「恥の文化」と呼んだ。しかし、彼女はもうひとつの「恥」を見落としていた。それは「私としたことがこんなことをしてしまった」という、「自らを恥じる」という恥である。誰からも見られていなくても、恥じる。あるいは、「こんなことをしてしまった」、ご先祖さまに申し訳ない」「亡き恩師の期待を裏切ってしまった」と、既に生きていない人に対して恥じる。日本人の倫理観は、単に自分の周囲の「人の目」だけではなく、先人たちや恩師たち、そして自分自身に対して恥ずかしいという感覚にも支えられているのである。

しかし、そうした恥の感覚が薄れ、ベネディクトの言うように「人の目」のみを気にするように「恥の文化」が縮小してしまい、それ故「人の目」が気にならなくなれば何でもやってしまうというのが現在の日本人の姿なのではないか。そして、そこには決定的に欠けているものがある。それは自分自身に対する「自尊心」だ。

④自分自身に対する自尊心がある人間ならば、「人の目」がないところでも、何でもやり放題ということにはならない。自尊心とは自己信頼と言い換えてもいい。自分自身が尊い存在であるということを知っている人。尊重されるに足る存在だと感じている人。自己を信頼し、自尊心のある人は、「私としたことが、恥ずかしい」ということはあまりしないし、してしまつたにしても反省する。しかし、自尊心が低く「自分なんかどうせたいしたことないんだよ」と思っている人は、人の目がなくなってしまうようなことでもできてしまう。自分という存在が、「ワガママ」な行動を律する歯止めにならないのだ。

《我がまま》が《ワガママ》に転ずるかどうかが、それは、そこに自尊心、自己信頼があるかどうかが大きに分かれ目になる。自己信頼に支えられた《我がまま》の追求は自分を生かし、他者も生かすものとなることが多い。しかし、自己信頼のない《我がまま》は《ワガママ》となって他人に多大な迷惑をかけるものになりがちだ。つまり、現在の《ワガママ》が横行する社会は、私たちひとりひとりの自己信頼、自尊心が低い社会であることの裏返しだと言えるのである。

(上田紀行『生きる意味』岩波新書)

(注) 新自由主義……政府の規制や緩和を撤廃して、民間の自由な活力に任せ、成長を促そうとする経済政策。

ルース・ベネディクト……アメリカ合衆国の文化人類学者。日本文化を記述した『菊と刀』を著したことで知られる。

問一 [A] にあてはまる一字の言葉を漢字で答えなさい。

問二 傍線部①「我がまま」と《ワガママ》の違い」は何によるものか。筆者の考えを示した表現を文中二十字以内で抜き出して答えなさい。

問三 傍線部②は四字熟語である。 [B] にあてはまる一字の漢字を答えなさい。

問四 [C] にあてはまる五字の言葉を、これより前の文中より抜き出して答えなさい。

問五 傍線部③「いぶかってしまう」について、「いぶかる」の言葉の意味を答えなさい。

問六 傍線部④の理由を文中の言葉を使って三十五字以内で答えなさい。

問七 次のア～オのうち筆者の趣意と一致するものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「生きる意味の病」からの解放に向けて、新自由主義的なグローバル리즘は一定の成果をもたらした。
- イ 抑圧された自分自身から《ワガママ》に生きることへの転換により、「生きる意味」から解放された。
- ウ 「人の目」さえも気にしなくなった日本人がやり放題になったのは、「恥の文化」が縮小してしまったからである。
- エ 自分自身に対する「自尊心」が低くなった日本人は、自分の行動を律するものを失ってしまった。
- オ 留学生が日本の大学生の授業態度に驚く理由は、文化や価値観の違いによるもので、やむを得ない面もある。

正答例 & 解説

2023年度 学校推薦型選抜（公募推薦）【国語】

正答例

- 問一 A 質
 問二 ① そこに自尊感情、自己信頼があるかどうか（「そこに」がなくても可）
 問三 ② 無
 問四 C 自己中心的
 問五 ③ 怪しく思う。不審に思う。
 問六 自分という存在が、〈ワガママ〉な行動を律する歯止めになるから。
 問七 E

大問	問	配点
	1	3点
	2	3点
	3	2点
	4	3点
	5	3点
	6	3点
	7	3点
		合計 20点



大学受験のエキスパート！
が詳しく解説！

攻略ポイント

全体で評論の読解問題が1題で、設問数が7問。設問内容は、空欄補充問題、抜き出し問題、語句の意味を問う問題、理由説明の問題、内容合致の問題である。全体的な難易度は高校基礎から標準レベルで、設問は基礎的な学力を問うものであり、難問レベルのものはない。漢字の読み・書き、抜き出し、選択問題を含む記述式で出題されている。文章は比較的読み取りやすい内容であり、3500字程度で標準的な文量である。設問については、文章内容の正確な理解を問うものである。まずは学校で学習する内容を理解して、丁寧に文章を読み、設問に対して正確に解くことを身につけよう。そのうえで、練習問題やびわこ学院大学の過去問題を解いてしっかりと準備しよう。過去問題は必ず時間をはかり、2回以上解いて、読むスピードや解くスピードといった時間配分を確認しておこう。

問一

空欄補充問題では、前後のつながりを確認して判断しよう。空欄Aでは、直前に「量的に見る見方だけではなく」とあることから、「量」と対比的な内容が入る。それゆえ、「質」に決まる。「質」と「量」のような対義内容を表わす語句については、確実におぼえておこう。また、空欄補充の問題は頻出なので、試験本番で正解できるよう過去問題で練習しておこう。

問二

傍線部の近くではなく、本文を大きく見る必要がある。「〈我がまま〉と〈ワガママ〉の違い」の原因となるものを特定して、抜き出す問題。ポイントは問われている内容の主語（主題）の表現に着目して、本文からすばやく見つけることである。つまり、「AとB」に関する説明が問われているので、当たり前だが「AとB」の2つの説明がされている箇所を特定しよう。傍線部を含む次の段落では「差は存在している」ということだけが書かれているのであって、原因については触れられていない。そこで、最終段落を見てみよう。「自尊感情、自己信頼があるかどうか大きな分かれ目になる」と、違いの原因が書かれている。

問三

四字熟語に関する空欄補充の問題。おぼえていれば正解することができる。四字熟語の知識を国語便覧や資料集などで確認しておこう。四字熟語に加えて、慣用語、ことわざといった語句の知識を問う問題は頻出。しっかりと準備して、確実に正解できるように準備しておこう。

問六

理由説明の問題。傍線部を含む段落の後半では、「自尊感情が低く、「自分なんかどうせたいしたことないんだよ」と思っている人」について「自分という存在が、〈ワガママ〉な行動を律する歯止めにならないのだ」という説明がある。その反対を解答要素としてまとめて説明しよう。

問七

内容合致の問題。このタイプの設問では、選択肢をチェックするときに何となく選んでしまうと迷ってしまったり、時間や手間がかかってしまったりするかもしれない。スムーズな解答法を心がけよう。まずは選択肢の前半部分から、本文のだいたいこのあたりに書かれているという見当をつけよう（解答領域の設定）。次に、選択肢の表現と解答領域の表現とを照らし合わせて、一致するかどうかチェックして正誤判断をしよう（内容チェック）。この作業をテンポ良くおこなってこよう。

◎この問いを例題にして学ぼう！

- ① 解答領域を決める。
- ② 選択肢の内容と該当箇所を照合する。
- ③ 正誤判断をおこなう。

（解答作業の例）

ア（「生きる意味の病」からの解放に向けて、）

①段落

新自由主義的なグローバリズムは一定の成果をもたらした。

×

*第1段落最終文「新自由主義的なグローバリズムは…… 私たちの「生きる意味の再構築」をもたらすものではない」に反する。